

高等学校地理歴史科（日本史）採点基準

2枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

| 問題番号 | 正 答 〔例〕 | 採 点 上 の 注 意 | 配 点 | |
|------|---------|---|---|--|
| ① | 1 | (エ) → (ア) → (ウ) → (イ) | 5 | |
| | 2 | イ | 5 | |
| | 3 | 工業がさかんなアメリカ合衆国北部は、イギリスからの工業製品に対抗して国内市場を確保する必要があったため。 | 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | 5 |
| | 4 | 記号 | イ | 記号と理由がともに合っているものだけを正答とする。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 |
| | | 理由 | 19世紀中頃に、工業化の先頭に立っていたイギリスは、19世紀後半になると、おくれで発展を始めたアメリカに比べて経済発展の速度がにぶり、工業力では追い越された。グラフでは、イが、1850年の最上位から下降し続け、1860年から上昇しているアに抜かれているので、イがイギリスの工業生産の推移に当たると判断したため。 | |
| | 5 | イ | 5 | |
| | 6 | ウ | 4 | |
| | 7 | 8世紀末から9世紀の『凌雲集』や『風信帖』は、大陸の文化の影響を受けた唐風の様式を示している。一方で、10世紀から11世紀の『古今和歌集』にはかなが使用されたり、『離洛帖』は和様で表されたりしており、この時期の文化は、それまでの文化に、日本人の人情を加味し、日本の風土に合うように工夫した、優雅で洗練されたものであることが特徴である。 | 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | 6 |
| | 8 | イ→ウ→ア→エ | 5 | |
| | 9 | ジェントリフィケーション | 4 | |
| | 10 | (イ) | 5 | |
| | 11 | エ | 5 | |
| 12 | エ | 5 | | |
| ② | 1 | (ウ) | 6 | |
| | 2 | (イ) | 6 | |
| | 3 | 支配者から軍人に分与地の徴税権が与えられる見返りに軍事奉仕の義務を課す制度。 | 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | 8 |
| | 4 | 9世紀初め以後、「知恵の館」を中心に、ギリシア語の文献が組織的、網羅的にアラビア語に翻訳され、ギリシアの学問が輸入されたため。 | 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | 10 |
| ③ | 1 | オ | 6 | |
| | 2 | イ | 6 | |
| | 3 | 大寺院や貴族などの私的な大土地所有が進んで荘園が形成され、公地公民の原則が崩壊したため。 | 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | 8 |
| | 4 | 資料IVには、幕府が守護・地頭を置き、兵糧米を徴収することを朝廷に願っていることが示されている。このことは、兵糧米の徴収だけでなく田地を知行すると資料Vに書かれているとおり、荘官が地頭へかわり、幕府による現地支配力が高まることを意味している。守護・地頭を置くことは、武士の荘園侵略につながり、貴族の支配権が奪われると批判している。 | 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | 10 |
| ④ | 1 | エ | 6 | |
| | 2 | E | 6 | |
| | 3 | 1982年には特定の鉱産資源や農産物の輸出に依存し、モノカルチャー経済であったが、2003年には付加価値の高い工業製品を多角的に輸出するようになったため。 | 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | 8 |
| | 4 | 資料から、ASEAN加盟国間で、一人当たり国民総所得に格差があることが読み取れ、域内のバランスのとれた経済成長をすることを目指すASEANとしては、この格差の是正が課題である。 | 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | 10 |

高等学校地理歴史科（日本史）採点基準

2枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

| 問題番号 | 正 答 (例) | 採 点 上 の 注 意 | 配 点 |
|------|---|--|-----|
| 5 | 1 重工業の基礎となる鉄鋼の国産化を目指した。 | 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | 5 |
| | 2 資料Ⅱから、第一次世界大戦により1918年まで貿易は輸出超過となったことが読み取れる。資料Ⅲ・Ⅳから、物価は急激に上がり、実質賃金は下がっている一方で、大企業は富を集中させていることが読み取れる。このように、空前の好況が資本家を潤して成金を生み出す一方で、物価の高騰で苦しむ多数の民衆が存在しており、第一次世界大戦中の産業の急速な発展によって労働者の数が大幅に増加したこともあり、賃金上げを求める労働運動が高揚したため。 | 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | 15 |
| 6 | 記号 ③ 生徒は、幕府が、自らを批判する思想や学問も積極的に取り入れたと考えている。これについて、資料Ⅱの高橋景保が資料Ⅰのシーボルト事件で処罰されたこと、幕府を批判する思想を著した高野長英が、資料Ⅰの蛮社の獄で弾圧を受けていることを示すことで、幕府は自らを批判する思想・学問を受け入れていないことを理解させる。 また、生徒は、19世紀初め、幕府が科学・技術のみならず、政治、法制、経済など広く研究していたと考えている。これに対して資料Ⅱを用いて、蛮書和解御用は、天文方に置かれていること、宇田川榕庵が化学の紹介を行っていることを示すことで、幕府の研究は、科学・技術が中心であったことを理解させる。 | 記号と指導がともに合っているものだけを正答とする。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | 20 |
| 7 | 織豊政権や江戸幕府によって、中世とは異なる近世国家が成立していく過程や近世社会の特質について、世界の動向と関連させて考察させる。 | 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | 10 |